

隨 感 隨 想

＊ 水 野 鎬

「青年技術者と勉強」

凡そ人の世に生を享けた以上、其の生涯を通じて勉強の必要な事は言ふまでもない、是れは青年に限つた事でもないし、我々技術者のみの問題でもない。

然しながら技術者拂底の昨今は一人で二人三人分を働かねばならないし、又働くべく社會は期待してゐる。

學校を出て間もない者は申すに及ばず、苟も青年たるの特權を有する者の勉強たるや誠に緊要である。

現在の職業に興味を持ち得る事は最も必要であり、又斯る人こそ本當に幸福であり得るのであるが、斯る境地に立ち得る人は平素如何なる修養が必要なりやと考へて見るに、常日頃の絶へざる勉強こそ、此の幸福を握り得る唯一の途であると確信する。

技術界の進歩は深々として、止らず一日たりとも我々技術者は之れを等閑視する能はざる現況である。此の工業界の流れに取り残されぬ様にするには、我々は常に工業界を達觀して、時々刻々變化してゆく専門的知識を吸収すべく次ぎ次ぎと刊行される、新刊書籍の友とならねばならぬと思ふ。

現在携はる仕事の性質上、精神的肉體的、疲勞甚しきものあるやも知れぬ、併し之れは豫て覺悟してゐる事であり、取りあげて言ふべき事

でもない。それだからといふて一日の業を終へて歸宅したら、新聞に目を通すのが精々であるといふ理由にはならないと思ふ。

のびんとする青年である。のびなければならぬ我々である。今にして將來飛躍の基礎を作らずんば又何時の日か作り得よう、大陸建設の前途や遠遠であり、我々技術者の使命や又重し。

我々は時間をつぶすのではなく、利用する事を考へねばならぬ、如何に僅かな時間でも、つとめて利用すれば何時かは非常な効果を齎すものである。えれがためには非常なる努力と克己心を要するは勿論、人並外れたエネルギーの所有者である事も必要な條件である。

斯る見地よりして私は各自の専門的雜誌を読む事も効果的な一策であると思ふ。現今刊行される雜誌は種類頗る多きも大別すると、研究發表を主とするものと、比較的通俗的で報告を主とするものとに分類される、然し如何なる種類の雜誌でも直接各自の業務に参考資料とする記事は極めて少い、然しながら是れを繼續して讀破してゐると隨時遭遇する問題に關して解決の指針盤となす事が出来る様になると思ふ。

一旦實社會に出れば學生時代の如き詰込主義的の勉強は効果がないし、又かやうな時間にも恵まれぬ、若し或る目的を以て、研究なり、勉強を始めたとしても、種々な理由で中斷の止むなきに至り、後日又始めようとしても何かしら

取りつきにくく、其の儘になるといふ事が往々にしてある。他の二三の友人に聞いてもそうであるらしいし、現に自分もかく感じてゐる。

我々は須らく萬事に積極的であり、且つ萬難を排して初志を貫徹する丈の決心が是非とも必要であると思ふ。大陸建設の有力なメンバーとして、自他共に許す我々が、もう少し自己の携はる仕事に追求的であり、探究的であり、

且つ日本内地等では想像もつかぬ諸種の事象

に對してより懐疑的であつて然るべしと思ふ。

之れがためには平素の勉強が何よりも大切であり、些細な時間と雖も利用すべく心掛ねばならぬと考へる。

フランクリン曰く、「汝等生を好まば時間を徒費する勿れ、何となれば時間は人生を組織する材料なればなり」と、彼にして尙然り、況んや我々に於てをや。

◇ 本會販賣圖書 ◇

第3回土木講習會講演集

四六倍判 210餘頁 定價 1.20 (但シ會員=限り ¥ 1.00)

内 容 目 次

- | | | |
|--------------------|--------------|--------|
| 1. 開會之挨拶 | 理事 | 坂田 昌亮 |
| 2. 遼河改修計畫 | 交通部 | 原口 忠次郎 |
| 3. 道路の構造物の凍害に就て | 交通部 | 米田 正文 |
| 4. 河川の基本調査に就て | 交通部 | 照井 隆三郎 |
| 5. 塞中コンクリートの現勢 | 土建協會 | 眞鍋 簡好 |
| 6. 河川の氷害 | 交通部 | 橋内 徳治 |
| 7. 朝鮮の河川 | 朝鮮總督府 | 川澤 章明 |
| 8. 最近のセメントの趨勢に就いて | 小野田セメント鞍山工場長 | 西 脇 寛 |
| 9. 土木工事に用滿洲産木材に就いて | 滿鐵々道研究所 | 布施 忠司 |

推奨すべき簡易舗装の構造と維持

東京市土木局管理課長 山 本 亨 著 定價 ¥1.00